

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年4月8日(金)

### 《信仰的な道を歩む基準》

今日の福音(ヨハネ7:1-2、10、25-35)ではこのような表現がありますね。『これは、人々が殺そうとねらっている者ではないか。あんなに公然と話しているのに、何も言われぬ。議員たちは、この人がメシアだということを、本当に認めたのではなからうか。』

イエスを殺した人々、迫害した人々、十字架の道を歩ませたその人々の中には、何も心の葛藤がなかったのでしょうか。「ああ、この人は私達が今まで保ってきた権威に危ない存在だから殺さなければならぬ」とそればかりを考えたのでしょうか。私はそうではないと思います。その議員、ファリサイ派の人々、多くの律法学者達も、今まで見たことのない青年の色々な振る舞いや、考え方、教え方を見て迷い込んだと思います。全体的に考えてみると私達には利益にはならない。この民を扇動して迷わせる危ない者だと思ふ反面、もしかしてこの人が言っていることが真実ではないのか、どうしてそのような確信に満ちた顔をしているのか。その人が行っている色々な業はどこから来る力なのか。必ず子の様に迷いがあったと思います。しかしその迷い、その葛藤の中で、イエスを殺すことに決めたのでしょうか。これも全く同じ観点から見られる話です。「悪に目がくらんでしまう。」皆様はどのように思いますか。本当にこの人が本物か本物ではないのか。ちょっと迷いがある時に、識別するその基準は何でしょうか。必ず必要です。少なくとも皆様がこれから「ああ、これは同じ迷いではないか」と思われる時に、このように判断なさって下さい。その人の振る舞いが、醜いか美しいか、その人が周りの人を笑わせて喜ばせているのか。何か顔が崩れるような雰囲気を作ってしまうのかを識別して下さい。必ず福音的なものはいつも申し上げたのですが、悲しくても美しいです。辛くても美しいです。そういうところを見ながら判断しなければならないと思います。いつも甘くて全てがよいものではありません。自分に利益にならなくても、美しいと思ったら認めて下さい。それが福音の道を、信仰的な道を歩める唯一の基準ではないかと思います。

悪は私達の弱いところを触ります。直ぐに負ける可能性があるところを触ります。それでいつも誘惑に負けてしまうのが私達の弱さです。しかし、誘惑のあるところには必ず私達が守らなければならない一番大事な事、もっと大事なことがあることを意識しなければなりません。

皆様、四旬節が殆ど終わっているのですが、たまにEメールが韓国からも他の国からも私の所に届きます。その内容は殆どが「四旬節に入って色々な否定的に何かを見ようとする目が自分の中にあるのに気がつきました。」というものです。その時に私の返事は全く同じです。「恵が溢れる時期、恵に近づける一番美しい時期、あなたが一生懸命にこの四旬節を迎えようとするほど、誘惑は大きくあなたに近づいて来ると思っています。負けないでください。」と言います。

四旬節も待降節も区別しないで普通に生きている人なら誘惑もありません。どうにか一生懸命にこ

の恵溢れる時期を上手く過ごして、本当に心の中に復活されたイエス様を体験したい気持ちがある限り、誘惑は激しく近寄って来るのを意識して下さい。ですからこの頃、何故ミサにも与りたくないし、なぜやる気を失ったのか、自分でも何かおかしいと思う時に、そういうことも一つ誘惑のしるしであることを意識して下さい。

ありがとうございました。